

2023 年 10 月吉日

日本管理会計学会会員各位

日本管理会計学会
2023 年度第 2 回関西・中部部会
ご案内

会員の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
下記の要領にて、日本管理会計学会 2023 年度第 2 回関西・中部部会を、甲南大学（準備委員長：杉山善浩）を開催校として、ハイブリッド方式（対面＋オンライン）にて開催いたします。部会参加費は無料、懇親会費は 3,000 円です。万障お繰り合わせのうえ、ご参加賜りますようご案内申し上げます。参加をご希望の方は、準備の都合上、11 月 8 日（水）までに、下記のリンク先 Google フォームからお申込みください。オンライン参加の皆さまには、別途、Zoom ID を送信させていただきます。

<https://forms.gle/XRBJBqjmzFFNgNsa6>

1. 日時：2023 年 11 月 18 日（土）13 時 30 分～16 時 40 分
2. 開催場所：甲南大学岡本キャンパス（兵庫県神戸市東灘区）
3. 報告会場：2 号館 2 階 2-21 講義室（阪急岡本駅徒歩 10 分または JR 摂津本山駅徒歩 12 分）
*会員控室：甲南大学岡本キャンパス 2 号館 2 階 2-22 講義室
4. 問い合わせ先：甲南大学経営学部 杉山善浩
E-mail：sugiyama@konan-u.ac.jp

日本管理会計学会
2023年度第2回関西・中部部会
プログラム

1. 日時：2023年11月18日（土）13時30分～16時40分
2. 開催場所：甲南大学岡本キャンパス2号館2階2-21講義室
*会員控室：甲南大学岡本キャンパス2号館2階2-22講義室
3. 開催方法：ハイブリッド方式（対面＋オンライン）
4. スケジュール：

部会進行の説明 13：30～13：35

準備委員長 杉山善浩（甲南大学経営学部 教授）

開催の辞 13：35～13：40

関西・中部部会長 徳崎 進（関西学院大学大学院経営戦略研究科 教授）

第1部〔特別講演〕 13：45～15：00（講演60分、質疑応答15分）

司 会 窪田祐一（南山大学経営学部 教授）

講演者 福島高司（株式会社 神戸製鋼所 品質統括部長）

講演テーマ KOBELCO TQM 活動のご紹介

第2部〔研究報告〕 15：10～16：35

司 会 水野一郎（関西大学商学部 教授）

第1報告 15：10～15：50（報告30分、質疑応答10分）

報告者 小笠原 亨（甲南大学経営学部 准教授）

論 題 混雑コストの認識ギャップに関する一考察

第2報告 15：55～16：35（報告30分、質疑応答10分）

報告者 打田昌輝（神戸大学大学院経営学研究科 大学院生）

論 題 新型コロナウイルス感染症禍におけるマネジメント・コントロール

閉会の辞 16：35～16：40

準備委員長 杉山善浩（甲南大学経営学部 教授）

懇親会 16：50～18：20

Hirao Dining Hall（甲南大学岡本キャンパス生協食堂）

5. 会費：部会参加費 無料、懇親会費 3,000円

* 関西・中部部会役員会

開催日時：2023年11月18日（土）12時30分～13時15分

開催場所：甲南大学岡本キャンパス2号館2階2-21講義室

日本管理会計学会
2023 年度第 2 回関西・中部部会
特別講演・研究報告要旨

特別講演 福島高司（株式会社 神戸製鋼所 品質統括部長）

講演テーマ **KOBELCO TQM 活動のご紹介**

講演要旨

KOBELCO グループにおける TQM の実践例として、「KOBELCO TQM」活動についてご紹介します。KOBELCO グループには、素材系、機械系、電力など多様な事業があり、各事業での TQM 活動状況は異なっていますが、グループ企業理念の下、お客様や社会に対して「信頼される品質」、更には「喜ばれる品質」が提供できる「強くて、よい会社」を目指しています。現場の困りごとを解決するキャラバン隊活動、風化防止へも繋がる KOBELCO 約束の場・約束の日、品質ガイドライン（グループで守るべきルール）を基にした SDCA 体制の構築、品質失敗コスト管理、TQM 活動の要となるミドル層への研修・実践、ROIC 向上のための KPI マネジメントなど、KOBELCO 流を追求しており、その実践状況を紹介いたします。

第 1 報告 小笠原 亨（甲南大学経営学部 准教授）

論 題 **混雑コストの認識ギャップに関する一考察**

報告要旨

混雑コストは、企業のキャパシティが圧迫されることで追加的に発生するコストである。もし、キャパシティの圧迫が当期の費用増加だけでなく、機会コストや事故のリスクといった会計項目に直接反映されないコストも増加させるのであれば、経営者は会計数値から、どの程度の混雑コストが発生しているか見積もることが難しくなる。この場合、経営者と現場で混雑コストに関する認識ギャップが生じる可能性がある。本報告では、このような認識ギャップについて企業の事例を踏まえて指摘する。

第 2 報告 打田昌輝（神戸大学大学院経営学研究科 大学院生）

論 題 **新型コロナウイルス感染症禍におけるマネジメント・コントロール**

報告要旨

新型コロナウイルス感染症禍において、企業や経営者のクライシスの認識がマネジメント・コントロールに影響を与えたのか、クライシスの認識によってマネジメント・コントロールがどう変化したのか、また、その変化が事業の創出や撤退、財務/非財務業績にどのような影響を与えたのかについて、後日実施予定の質問票調査に先立ち、先行研究の整理や仮説の導出を行い、予想される結果を示す。